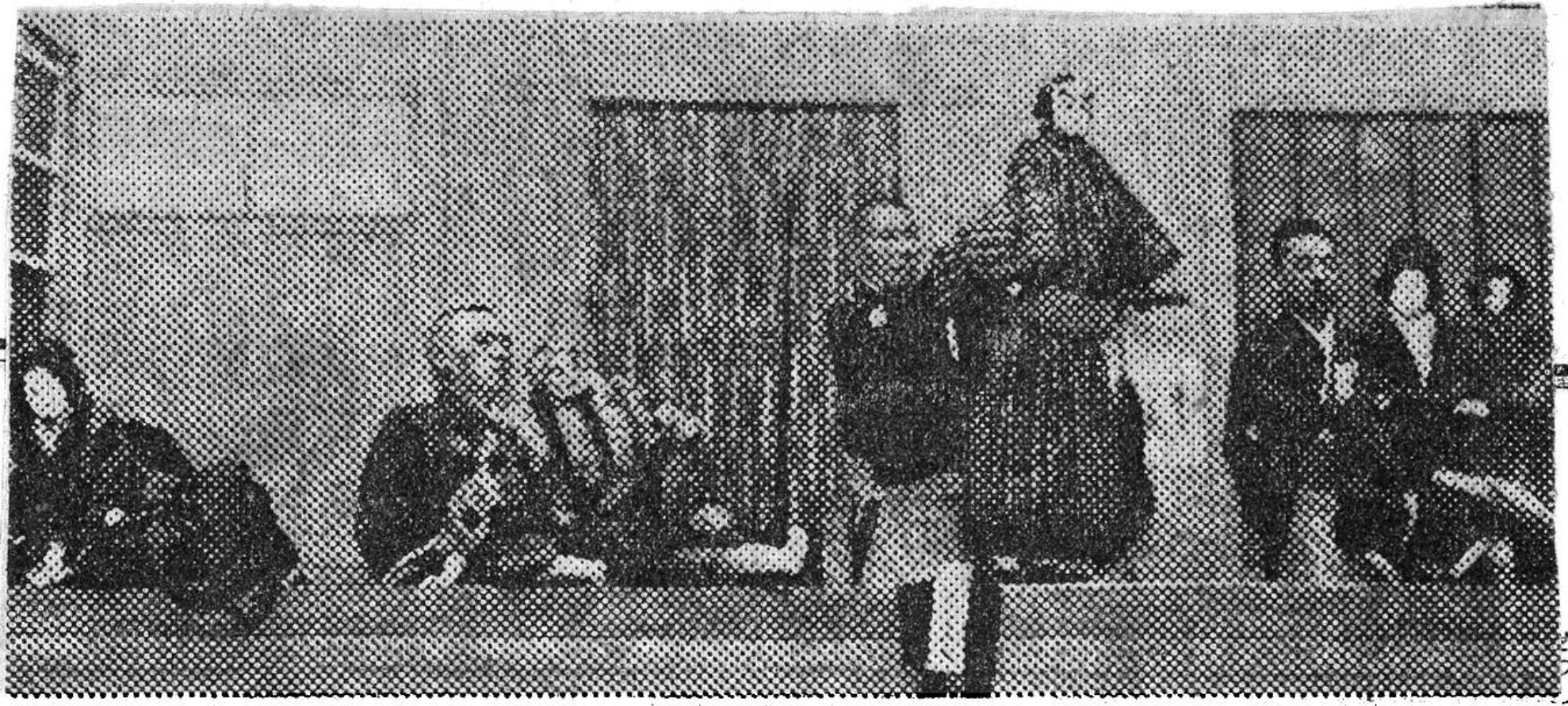

義太夫 逆櫓の段

午後八時

浄るり　竹本相生太夫

三味線　鶴澤道八

逆櫓の段は「ひらかな盛衰記」の三段目の切である、粟津の敗戰から世をくらました樋口次郎は、船頭權四郎の家へ入聟となつて松右衛門と名を變へ、逆櫓を言ひ立てて梶原に近づき、義經の兵船の舟子となつて故主義仲の仇を報ぜんとしたが、却つてその裏をかゝれて重忠に召捕られる、しかし前段（大津清水屋の場）で取違へた槌松の代りの駒若君は、重忠の情けで助けられるといふ筋、かなり長い曲なので今晩は途中から隨所を省略して語る（寫眞はその一台）